



ホスピス・緩和ケアボランティア研修会開催

ホスピス医として命に寄り添って

講師 関本 雅子氏(かえでホームクリニック顧問)

- ◆ 実施日:2023年7月28日(金) 13時30分~16時
- ◆ 会場:三宮コンベンションセンター&Web
- ◆ 参加者:50名(Web参加96名)



日本病院ボランティア協会との共催で、本年度も対面とWebのハイブリッド開催となりました。関本氏から、ホスピス医としての長年の経験から得られたホスピスの心と、これからますます必要とされる在宅でのホスピスケアについて熱く語っていただきました。



日本病院ボランティア協会
理事 太田 里美

近代ホスピスの母と言われているシシリー・ソングース先生の言葉からご講演は始まりました。

『私たちはあなたが平安のうちに死ぬことだけでなく、最期まで生きる事ができるように、できるだけのことをさせていただきます。』最期、亡くなるまで、その人らしく生きられるよう見守ってくださいというとても温かい力強いお言葉です。

私事になりますが、私は在宅ホスピスのありがたさを身をもって経験しました。14年前、私の夫は大病院での全ての治療を終え、在宅療養に入りました。24時間対応でいつでも医療者と連絡がとれます。痛みが出た時には電話をすれば、〇〇の薬を使って下さいと指示が出ます。毎日の往診・点滴。先生のお話にあったように、S字フックを使ってクロゼットにひっか

けての点滴でした。1か月間でしたが、細やかなケアを受けました。苦痛を和らげてもらい、共に過ごすことができました。関本先生は「苦痛や問題の解決が困難な時もあり、医療者としてとても辛い時もあるが、患者と家族に向き合い、関わり続ける事が大切です。」とおっしゃっていました。今の医学でも痛みや苦痛を取り除くことが困難な場合もあり、そんなときにも傍に寄り添ってくださるということです。私は在宅緩和ケアを受ける事ができたことに深く感謝しています。

先生のご講演の最後にご子息、関本剛氏のお話がありました。息子さんを亡くされるという深い悲しみを経験され、ホスピス医として母として、ご心情いかにばかりかとお察しました。明るく気丈にふるまわれているお姿に感銘を受けました。

今、健康であることに感謝し、Everyday is a gift その日、その日がプレゼントという先生のお言葉を大切にしていこうと思います。

高齢者がん患者の意思決定支援に関する研修会

高齢者の診療機会が増え、認知症をもつ高齢者のがん治療をどのように進めていくのかなど、意思決定支援に関する講義とグループワークが行われました。



- ◆ 日 時: 2023年7月22日(金) 13:30~15:30
- ◆ 場 所: Web開催 (Zoomシステム)
- ◆ 講 義: 『高齢がん患者の意思決定支援について』
小川朝生
(国立がん研究センター東病院 精神腫瘍科)
- ◆ 参加者: 115名 (WEB参加)

高齢がん患者の意思決定支援に関する研修会に参加して

新潟県立新発田病院看護部 岡村 利佳



高齢がん患者の意思決定に携わる機会が年々増える中で、認知症をもつがん患者の意思決定において患者本人の意向が十分に反映されているのかと疑問に感じる場面も多く、どのような支援が必要とされ、どのように支援していくのかについて学ぶ必要があると感じていた。

今回研修会に参加し、認知症の人の日常生活・社会生活における意思決定支援ガイドラインに基づく考え方や具体的な事例を通して検討していく中で、支援者としての支援能力が問われていること、そして認知症で理解できないから意思決定できないといった誤った前提を改めるために、現場での

認識を変えていくための取り組みの必要性を感じた。

グループワークでは、支援をする上でおさえておきたい点をチェックリスト化した意思決定支援準備シートを用いたり、4分割表で情報を整理したうえで具体的な支援を検討するといったステップを踏み、実際に映像での事例を通して具体的な支援について学ぶことができた。また、多職種と一緒に検討することで様々な視点からの情報や支援方法、情報共有の重要性についても再確認することができ、支援を行っていくうえでの視野を広げることもつながった。

認知症患者を含めた高齢がん患者の意思決定が、患者本人の意思を尊重した意思決定となるように、私たち医療者は最大限の配慮や工夫を怠らず「患者本人が決める」といった視点を持ち支援に携わることが大切だと感じた。今回の研修での学びを自施設に持ち帰り、できることから取り組んでいきたい。

第8回Whole Person Care研究会

日本Whole Person Care研究会主催の第8回研究会が8月19日(土)札幌医大で開催されました。

テーマ 「医療者の心を守れ」

講演

『仏教の瞑想とマインドフルネス』
富山大学 井上真理子氏

シンポジウム

「医療者の心を守り、Whole Personを維持するためにできること」

釧路市立総合病院 岡澤林太郎氏

札幌医科大学 保健健康センター 杉村 政樹氏



★次回、第9回Whole Person Care研究会

日 時: 2024年3月16日(土) 13時~17時

場 所: 京都大学医学部 人間健康科学科

テーマ: Whole Person Careの理論と実際

講演、シンポジウムの内容は日本Whole Person Care研究会ホームページで閲覧できます。

新 Whole Person Careワークショップ 4年振りに開催

2012年から始まったWhole Person Careワークショップでしたが、コロナにより3年間途絶えていました。この度、内容もブラッシュアップされ新Whole Person Careワークショップとして再開されました。

- ◆ 日時: コースⅠ 8月26日(土)
コースⅡ 8月27日(日)
- ◆ 会場: 千里ライフサイエンスセンター
- ◆ コーディネーター: 恒藤 暁氏、安田裕子氏
- ◆ 参加者: コースⅠ 11名
コースⅡ 8名



参加者の声

- 講義ではなく、自分で考える時間が多く、とても新鮮でした
- 1日のワークショップ、長いと思っていたが、とても短く感じました。

お知らせコーナー

● 第6回国際セミナー

- ▶ 日時: 11月18日13時～17時 (大阪)
11月19日13時半～17時半 (東京)
- ▶ 講師: Tom.A.Hutchinson教授
(McGill大学医学部)
- ▶ テーマ: Whole Person Careの共育

受付中!
申し込みは
お早めに。



● 日本死の臨床研究会 年次大会

- ▶ 日時: 11月25日(土) 26日(日)
- ▶ 会場: 愛媛県民文化会館 松山市
25日 ホスピス50周年特別講演
『ホスピスのこころ』
・講師 柏木哲夫氏



【詳細はホームページをご覧ください。】

こんにちは ホスピス

四国がんセンター 緩和ケア病棟の紹介

緩和ケアセンター部長 成本 勝広

四国がんセンターは、2006年4月に現在の場所に新築移転しましたが、その際に院内型の緩和ケア病棟として、開設されました。松山市にあり、皆さん、松山といえば、道後温泉を思い浮かべるかもしれませんが、病院は少し郊外にあります。周囲には、田園が広がりどかな雰囲気です。

病床は、25床あり、すべて個室になっています。個室は一人で寂しいという患者さんもおられるので、2人から3人の部屋があれば良かったかなと思う時もあります。各部屋にはバル



部屋から眺める庭

コニー型の庭があり、部屋から外に出ることができます。季節の草花を楽しむことができ、患者さん、家族の癒しとなっています。

コロナ禍になり、

ボランティア活動が中止となり、今もまだ、再開できていませんが、季節のイベントが行える日を待ち望んでいます。

開設当初より、がん診療連携拠点病院の緩和ケア病棟として、①専門的緩和ケアの導入と適応、②在宅移行までのワンクッション、③在宅患者のバックアップベッドの役割を目標として運営してきました。そして、それは現在も変わっていません。年間約350名の方が入院され、不思議なことに、その数はあまり変動がありません。これからも、在宅で過ごしている患者さん、家族が、安心して過ごせるように、「最後の砦」でありたいと考えております。



クリスマスの飾りつけ

ホスピス財団 2023年度 事業進捗状況報告

- ホスピス・緩和ケアに関する調査研究事業（公募）…進行中
- 遺族によるホスピス・緩和ケアの質の評価に関する調査研究事業（第5次調査・実質2年目）…進行中
- 『ホスピス・緩和ケア白書 2024』…進行中
- ホスピス・緩和ケアボランティア研修セミナー開催事業
 - 日時：2023年7月28日（金）
 - 場所：三宮コンベンションセンター & Web
 - 講師：かえでホームクリニック顧問 関本 雅子氏
- 新WPCワークショップ開催事業
 - 日時・場所
 - コースI 2023年8月26日（土）千里ライフサイエンスセンター
 - コースII 2023年8月27日（日） 同上
 - 講師 恒藤 暁氏 安田 裕子氏
- 『Whole Person Care理論編』発行事業 …進行中
- 特定非営利活動法人「ともいき京都」における病いと共に生きる人・市民主体のプログラム創生事業 …進行中
- 高齢者がん患者の意思決定支援に関する研修セミナーの開催

日時・場所：2023年7月22日（土）Web開催
- ホスピス・緩和ケアフォーラム開催事業
 - 実施予定日・場所

2023年11月26日（日）愛媛県県民文化会館（松山市）
 - 講師：智内兄助氏（洋画家）、智内威雄氏（左手のピアニスト）
- 一般広報活動事業
- 『これからのとき』『旅立ちのとき』冊子増刷
- ホスピス財団 第6回 国際セミナー開催事業
 - 実施予定日・場所

2023年11月18日（土）大阪会場 梅田スカイビル会議室

2023年11月19日（日）東京会場 品川インターシティ会議室
 - 講師：McGill大学医学部 Hutchinson教授
- APHN関連事業…進行中
- 日本・韓国・台湾・香港・シンガポール・インドネシア 第4期共同研究事業（3年計画の2年目）…進行中

ホスピス財団 2022年度(第23期) 決算の概要

2022年4月1日から2023年3月31日まで

(単位：千円)

科 目	2022年度決算
【経常収益】	
①基本財産運用益	13,038
②受取寄付金	16,610
（内訳） 賛助会費収入	16,495
一般寄付金収入	115
③雑収益等	1,021
経常収益計（A）	30,669
【経常費用】	
①事業運営費	22,014
（内訳）ホスピス・緩和ケアに関する調査・研究事業	8,753
ホスピス・緩和ケア従事者に関する教育事業	6,124
ホスピス・緩和ケアに関する広報事業	4,525
ホスピス・緩和ケアに関する国際交流事業	2,612
②一般管理費	5,205
経常費用計（B）	27,219
当期経常増減額（A－B）	3,450

寄付者一覧

(2023年3月～2023年8月 順不同、敬称略)

(個人)

竹下淳也、大堀マサコ、匿名1名

新規賛助会員

(2023年3月～2023年8月 順不同、敬称略)

(団体)

opsol株式会社、中山寺駅前ビル株式会社

一般財団法人 竹田健康財団

(個人)

安藤詩織、川村知裕、岡田智雄、毛利貴子、岩田昌美

寄付・賛助会員のお礼とお願い

私たちの活動は、全て、皆さまからのご寄付と賛助会員の方々の会費に拠っております。どうか私どもの活動の趣旨をご理解いただき、ご寄付・賛助会員のお申し込みを頂けるようお願いいたします。

(税額控除の対象になります)

また、「遺贈」による寄付もぜひご一考下さい。当財団は、三井住友信託銀行と「遺贈による寄付制度」について提携しております。公益法人への遺贈に拠る寄付財産は、原則として相続税の非課税財産となります。

上記ご寄付、賛助会員、遺贈に関するお問い合わせは

06-6375-7255 です。

●2023年6月末でCANPAN決済サービスが終了し、新しくSyncable（シンカブル）決済サービスに移行しております。

CANPAN決済サービス（6月末終了）

→Syncable決済サービス（7月1日～）

編集後記

コロナもようやく下火となりつつあるが、本年は日本

でホスピスケア（OCDP）が開始された1973年から50年目に当たる記念すべき年となっている。この記念すべき年に、当財団も本誌に記載したように、活動が再開できたことに安堵を覚えるとともに、この50年間、今に至るまで多くの先人たちの努力がなされたことも忘れてほしい。そして、何よりも近代ホスピスの母と言われているシシリー・ソングラス女史に

より1950年代から始まったホスピスケアの真髄が今のホスピス・緩和ケアにそのまま受け継がれることを望むものである。

(編集子)

